

[ 東京工業大学 2018 年前期 3 ]



方程式  $e^x(1-\sin x)=1$  について、次の問いに答えよ。

(1) この方程式は負の実数解を持たないことを示せ。また正の実数解を無限個持つことを示せ。

(2) この方程式の正の実数解を小さい方から順に並べて  $a_1, a_2, a_3, \dots$  とし、 $S_n = \sum_{k=1}^n a_k$  とおく。

このとき極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{S_n}{n^2}$  求めよ。



(1)  $f(x) = e^x(1-\sin x) - 1$  とおく。

$$\begin{aligned} f'(x) &= e^x(1-\sin x) + e^x(-\cos x) \\ &= e^x(1-\sin x - \cos x) \\ &= e^x \left\{ 1 - \sqrt{2} \sin \left( x + \frac{\pi}{4} \right) \right\} \end{aligned}$$

であり、 $f'(x)=0$  となるのは  $x + \frac{\pi}{4} = \frac{\pi}{4} + 2n\pi$  すなわち  $x = 2n\pi$  ( $n$  は整数)

$$\text{または } x + \frac{\pi}{4} = \frac{3}{4}\pi + 2n\pi \text{ すなわち } x = \frac{\pi}{2} + 2n\pi \text{ ( $n$  は整数)}$$

のときである。

ここで、 $2n\pi < x < \frac{\pi}{2} + 2n\pi$  のとき  $f'(x) < 0$ 、 $\frac{\pi}{2} + 2n\pi < x < 2\pi + 2n\pi$  のとき  $f'(x) > 0$

であるから、 $f(x)$  は  $x = 2n\pi$  で極大値、 $x = \frac{\pi}{2} + 2n\pi$  で極小値をとる。

$$f\left(\frac{\pi}{2} + 2n\pi\right) = -1 \text{ であり、}$$

$n$  が負の整数のとき、各極大値について  $f(2n\pi) = e^{2n\pi} - 1 < 0$  であるから

$f(x) = 0$  は、負の実数解をもたない。

$n$  が正の整数のとき、各極大値  $f(2n\pi) = e^{2n\pi} - 1 > 0$  であるから

$f(x) = 0$  は、 $2n\pi < x < \frac{\pi}{2} + 2n\pi$  に 1 つ …①、

$$\frac{\pi}{2} + 2n\pi < x < 2\pi + 2n\pi \text{ に 1 つ …②}$$

実数解をもつ。

よって、正の実数解を無限個もつ。

(2) ①, ②の解  $x = a_n$  は交互に現れ,  $k = 1, 2, 3, \dots$  に対し,

②より  $\frac{\pi}{2} + 2(k-1)\pi < a_{2k-1} < 2\pi + 2(k-1)\pi$ , ①より  $2k\pi < a_{2k} < \frac{\pi}{2} + 2k\pi$  の範囲にある。

これらをまとめて表すと

$$\frac{\pi}{2} \left\{ 2n - \frac{1 + (-1)^n}{2} \right\} < a_n < \frac{\pi}{2} \left\{ 2n + \frac{-1 + (-1)^n}{2} \right\} \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

となる。

よって,

$$\sum_{k=1}^n \frac{\pi}{2} \left\{ 2k - \frac{1 + (-1)^{k-1}}{2} \right\} < S_n < \sum_{k=1}^n \frac{\pi}{2} \left\{ 2(k+1) - \frac{1 + (-1)^k}{2} \right\}$$

$$\frac{\pi}{2} \left\{ n^2 + n - \frac{1}{2}n - \frac{1}{2} \cdot \frac{1 - (-1)^n}{1 - (-1)} \right\} < S_n < \frac{\pi}{2} \left\{ n^2 + n + 2n - \frac{1}{2}n - \frac{1}{2} \cdot \frac{-1 - (-1)^n}{1 - (-1)} \right\}$$

$$\frac{\pi}{2} \left\{ n^2 + \frac{1}{2}n - \frac{1 - (-1)^n}{4} \right\} < S_n < \frac{\pi}{2} \left\{ n^2 + \frac{5}{2}n + \frac{1 + (-1)^n}{4} \right\}$$

辺々を  $n^2$  で割って

$$\frac{\pi}{2} \left\{ 1 + \frac{1}{2n} - \frac{1 - (-1)^n}{4n^2} \right\} < \frac{S_n}{n^2} < \frac{\pi}{2} \left\{ 1 + \frac{5}{2n} + \frac{1 + (-1)^n}{4n^2} \right\}$$

ここで, 左辺と右辺は共に  $\frac{\pi}{2}$  に収束するので, はさみうちの原理より

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{S_n}{n^2} = \frac{\pi}{2}$$